

速報第4号

各関係機関団体の長
各病虫害防除員 } 殿
農業資材販売等関係者

福岡県病虫害防除所長

平成18年度病虫害発生予察速報第4号について

このことについて、病虫害発生予察速報第4号を発表したので送付します。

イチゴ

1 対象作物：イチゴ

2 病虫害名：炭疽病

3 発生地域：県下全域

4 発生予想：やや多い

5 速報の根拠

7月2半旬に県下21カ所の育苗床の苗から下位葉を採取し、エタノール浸漬による簡易診断方法で炭疽病の潜在感染株調査を行った結果、潜在感染株の発生ほ場率が61.9%と高く、感染株率が55%と高いほ場が見られた。7月の降水量は平年より多く、今後1ヶ月間の平均気温は平年並か高いと予想されており、今後の発生増加が懸念される。

(1) 7月5半旬の調査の結果

発病株率 0.3% (平年：0.8%、前年：0.3%)

発生ほ場率 8.7% (平年：10.9%、前年：8.7%)

(2) 潜在感染株調査の結果(別表)(採取日：7月2半旬、検定日：7月5半旬)

炭疽病潜在感染株率 16.9%、発生ほ場率 61.9%

葉枯炭疽病潜在感染株率 9.0%、発生ほ場率 38.1%

6 防除上の注意等

(1) 罹病株は感染源になり降雨やかん水により急速に蔓延するので、発病を確認した苗は速やかに持ち出し処分する。

(2) 排水を良くし、かん水時及び雨滴の跳ね返りを防止する。

(3) 病徴が見えなくても潜在感染している可能性がある。本病は高温期の降雨で発生しやすいので、発生状況に注意する。

(4) 窒素肥料の多用、急激な肥効や肥料切れなどの条件下で発生しやすいので、適正な肥培管理に努める。

(5) 夜冷短日や低温暗黒などの処理は、株へのストレスがかかり発生を助長するので、これらの処理には健全苗を使用する。

(6) 発病後の薬剤散布は効果が低い。葉かき作業後や降雨前後を中心に予防散布を行う。

別表

イチゴ炭疽病 潜在感染株調査

調査地点	潜在感染株率 (%)	
	Glomerella cingulata による炭疽病	Colletotrichum acutatum による炭疽病 (俗称：葉枯れ炭疽病)
前原市長糸	0	0
久留米市田主丸町	10	0
久留米市宮ノ陣町	35	5
筑前町栗田	0	0
福智町伊方	0	0
八女市蒲原	20	0
筑後市上北島	55	0
大川市兼木	0	0
大木町蛭池	0	0
黒木町串毛	25	0
広川町水原	25	0
高田町黒崎開	55	0
岡垣町吉木1	15	0
岡垣町吉木2	35	55
岡垣町新松原	15	15
みやこ町豊津徳政1	0	45
みやこ町豊津徳政3	0	20
行橋市南泉	5	0
行橋市二塚	0	30
豊前市荒堀	20	10
豊前市久路土	40	10
県内平均	16.9	9.0
発生ほ場率	61.9	38.1

注1 調査地点は県内のいちご育苗期の定点調査ほ場21か所
1地点20株、1株当たり下位葉2～3枚を採取した。

注2 検定手順

- (1) 検定葉を70%エタノールに30秒浸漬後、殺菌水で水洗する。
- (2) 殺菌水で湿したろ紙を敷いたシャーレに検定葉を収め、25℃に設定した恒温器に2週間程度静置する。
- (3) 検定葉を検鏡し、炭疽病菌を確認する。